

「ゲルニカ」の大きさ 平和を描く

NPO法人「港の風I・N THE OFFICE」ING(沖眞由美理事長)は24日、横浜港国際船ターミナル大さん橋出入国ロビーで、子供たちがパブロ・ピカソの「ゲルニカ」と同じサイズの巨大キャンバスに平和の絵画を描くプロジェクト「横浜キッズ・ゲルニカ」を開始した。横浜キワニスクラブが協力した。1年をかけ、3・5×7・8歳と大規模なキャンバスに、「横浜・愛・平和」をテーマにした絵画を完成させる計画。

今回、米キワニスクラブ関係のホームステイ中の高校生9人のほか、埼玉キワニスクラブ会員家族の高校生1人、関東学院中学・高校漫画研究部学生8人が一緒に絵画の作成にあたり、下地の色づけや作品のシンボルであるカモメなどをゆっくりと描き込んでいった。参加した関東学院中高の高校3年で漫画研究部長の城間杏さん(17)は「平和と愛と横浜の魅力を描くから感じ取ってもらえたら」と話した。

絵画は、来年4月の豪華客船「飛鳥II」入港時のセレモニーまでの完成を目指し、その後は、広島や長崎など国内の展示にも貸し出す予定。



日米の高校生らが平和や愛のメッセージを込めた絵の作成に取り組んだ
＝24日、横浜港国際線ターミナル大さん橋出入国ロビー (那須慎一撮影)